

## 2 参加体験型学習活動（ワークショップ）とは？

「親の学び」講座は、参加体験型学習活動（ワークショップ）です。参加体験型学習活動とは、講演会や講義のように、講師の話を参加者が一方的に聞いて学ぶのではなく、参加者同士がテーマに沿って話し合ったり、作業したりすることを通じて学び合います。

自分のこれまでを振り返ったり、他人の話を聞いたりすることをきっかけとして、これまで気付いていなかったことに気付いたり、改めて大切なことを認識したりすることができます。

### ☆参加体験型学習活動の流れ

各プログラムの趣旨に沿って、個人での作業、グループ（2人以上）での活動、全体での活動の3段階を組み合わせて展開します。

#### ①個人での作業

与えられたテーマについて考えたり、書き出したりします。グループでの活動の前に行う場合が多いようです。

#### ②グループ（ペア）での活動

テーマに沿って、個人で考えたことを出し合ったり、共同作業をしたりします。幅広い意見を交流させたい、意見の交流を活発にしたいというねらいが生じた場合は、活動の途中であってもペアを交代したり、2人組を3人組や4人組にしたりする（グループチェンジする）など、流動的な対応が望まれます。参加者の様子を見ながら、臨機応変に対応することが大切です。

#### ③全体での活動

進行役が説明をしたり、各グループの話し合いで出た意見を共有したりします。講座の最初と最後に行うことが多いです。

### ☆参加体験型学習活動で大切なポイント

#### ポイント1 主体的な参加

参加者一人一人が「受け身」になるのではなく、それぞれが考え、発言をすることによって、これまで気付かなかったことに気付いたり、もともと知っていたことについて、改めて大切であることを確認したりすることができます。そのためには、一人一人が参加、発言しやすい雰囲気づくりが必要になります。

#### ポイント2 お互いに学び合う

グループ内で意見を出し合ったり、全員で気付きを発表したりすることを通じて、多様な視点や考え方があることに気付き、学ぶことができます。そのためには、お互いの意見を否定せずに聞く雰囲気をつくったり、発言を引き出すような進行役からの声かけ等を行ったりすることが大切になります。